

沖縄作戦における工兵第24連隊史実史料(24P)

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

沖縄進駐前の履歴の概要

1. 昭和9年4月独立混成旅団工兵中隊として編成せられ満州公主嶺に駐屯す  
(其の間同地付近の警備並びに北支事変に参加)
2. 昭和13年3月部隊は2ヶ中隊に改編せられ独立混成旅団工兵隊と改称せらる  
(部隊長川村大佐)
3. 昭和13年7月第1中隊(中隊長・安藤進大佐)を騎兵第4旅団の指揮下に  
入らしめ北支中支に派遣す
4. 昭和13年ノモンハン事件に依り第2中隊(当時安岡兵団の指揮下にあり)  
出動
5. 昭和14年12月部隊は第24師団編成と共に工兵第24連隊と改称せられ  
ノモンハン事件終局するや満州国東安省東安に移駐同地に於て国境警備に服す  
(部隊長 沼崎恭平大佐)
6. 昭和15年5月北支派遣中の第1中隊(北支派遣騎兵旅団編成改正過剰人員)  
は工兵第24連隊に原隊復帰をなす
7. 同年部隊編成改正にともない甲装備に編成せらる
8. 昭和16年3月児玉咏光大佐補職せらる
9. 昭和19年7月6日部隊に動員下令
10. 同年7月13日東安省東安出発、7月19日小倉着、昭和19年8月1日  
門司湊出発、同月5日沖縄那覇港に上陸せり

部隊戦闘開始時の編成

工兵第24連隊編成

長	陸軍大佐	児玉咏光	第1中隊長	陸軍中尉	江井 全
副官	陸軍中尉	加藤廣一	第2中隊長	陸軍中尉	中山四加次
教育主任	陸軍中尉	堀口 博	第3中隊長	陸軍中尉	江淵 隆

主計	陸軍主計中尉	前川保晴	兵器	陸軍兵器准尉
獣医	陸軍獣医中尉	棚川 寛		岡山敏男
衛生	陸軍軍医大尉	中村正男		同 小林幸雄
衛生	陸軍軍医大尉	久野昌一	器材小隊長	陸軍少尉 佐々木節夫

防衛召集 250名  
 兵力 750名 (概数にして詳細不明なり)  
 合計 1000名

指揮隷属・配属関係

1. 作戦開始前

第24師団隷下

2. 作戦開始後

第1中隊を歩兵第22連隊に

第2中隊を歩兵第32連隊に

第3中隊を歩兵第89連隊に配属す

器材小隊を連隊本部直属

部隊戦闘経過の概要

昭和19年7月13日 東安出發博多港に上陸し約2週間小倉に駐屯せり  
 8月 1日 沖縄に向かうべく門司港出帆す  
 8月 5日 那覇港に上陸し嘉手納に進駐す、以後石嶺、久得に在りて周辺の防備及び陣地構築に従事す  
 10月10日 敵機約800機空襲し来るも人員1名戦死せるのみにて大なる損害無し  
 12月 6日 武部隊の転進に伴い島尻郡高峯村大里に転進以後付近の防衛及び陣地構築に任ず  
 昭和20年3月23日 多数の敵機来襲、甲号戦備を全くし戦闘配備を完了す  
 3月24日 敵機動部隊進攻し艦砲射撃を開始す  
 4月 1日 敵嘉手納、北谷正面より上陸を開始す

- 4月27日 連隊長以下首里市赤田町に転進す
- 5月 4日 第2次総攻撃に参加し敵に大なる損害を与えたるも我も亦人員の損失大なり
- 5月29日 首里撤退 島尻郡高峯村字大里に転進す
- 6月10日 敵首里に殺到し来り連隊長は新垣に転進す
- 6月22日 全員壮烈なる挺身斬り込み及び戦車に体当りを敢行す  
兎玉連隊長は壮烈なる戦死を遂げ将校以下大半戦死し生存者僅かに20数名なり

#### 戦果

首里転進後は本部及び器材小隊を除き各3ヶ中隊は各歩兵連隊に配属になり、地雷埋設及び肉迫攻撃挺身斬り込みにより戦車を爆破炎上するもの40～60両トラックその他多数

敵の人員殺傷に付きては全く不明なるも相当の損害を与えたるものと思せらる

大里後退の後には各部隊と共に協力し困難なる状況下能く敵の鋭鋒を破り以つて全軍の意気を高揚せり、殊に地雷の埋設は巧妙を極め能く敵の戦車群の進出を阻止し莫大なる損害を与えたり

松茂2中隊松山少隊は首里に於て地雷埋設及び斬り込みにより一挙に敵戦車16両を爆破し軍司令官より感状を授与せられたり

#### 第2中隊志田小隊

田口伍長以下3名は首里に於て敵中深く斬り込みを敢行し戦車3、自動車3、幕舎監視兵3名、人員殺傷50の戦果を挙げ師団長より賞状を授与せられたり

その他壮烈鬼神をも泣かしむる勲功を樹てたるもの枚挙にいとまなきも遂に敵の圧倒的物量及び兵力に神かけたる勇士の勇戦も遂に戦局を好転せしむる事能はず遂に全員壮烈なる戦死を遂げるに至れり

## 沖縄作戦に於けるし重兵第24連隊史実資料（24丁）

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

### し重兵第24連隊史実資料

#### 第1 部隊履歴の概要

1. 昭和19年7月 6日 動員下令
2. 7月23日 動員完結
3. 7月13日 満州国東安省東安出発
4. 7月23日 下関上陸
5. 8月 5日 沖縄本島那覇港到着
6. 8月 8日 中頭郡喜名到着
7. 12月10日 島尻郡富盛地区に転進  
同日より同地区の陣地構築並びに防衛
8. 昭和20年6月23日 沖縄本島一帯に対し敵機爆撃開始  
甲号戦備下令同日より戦闘配備完了
9. 6月24日 連隊長戦死

#### 第2 戦闘経過の概要

1. 昭和20年3月23日朝 突如南方上空敵機の大編隊現出0700頃より沖縄全島に対し爆撃を開始
2. 翌4日摩文仁ー湊川南方海上に敵巡洋艦数隻現出艦砲射撃を開始せり、其の主射向は湊川、具志頭、摩文仁並びに新城、東風平村付近
3. 3月25日より爾後連日沖縄南部は爆撃及び艦砲射撃に依り攻撃を受く、此の間各部隊は夜間陣地の補強構築障害物等の設置に多忙を極む
4. 3月27, 28日の両日に亘り0700頃より摩文仁ー湊川海岸に陽動的偽上陸を実施せり
5. 4月1日 敵は中頭郡中飛行場正面に上陸を開始す、兵力約3～4師なるも

のの如し

6. 4月1日 し重隊は輸送計画に基づき東風平野戦倉庫或は国場野戦倉庫に在りたる糧まつ及び弾薬、各部隊の保有糧まつ等を各部隊に配布するため連夜総出動す

7. 4月10日 各部隊より斬り込みを出す、各中隊より下士官、兵各3名1組(田だし将校も又1組づつを編成す)を編成し準備す

8. 4月10日 より野砲弾薬及び野砲の積載に出動す

9. 4月中旬 一部患者輸送に従事す

10. 兵団首里地区転進の為の交通統制のため4月23日より同27日まで山川南風原2ヶ所に出動す

11. 5月4日夜 総攻撃に参加するため昼間行動も行う決心の下に出発せるも途中総攻撃変更のため予定変更、砲兵第9中隊の砲を大名まで輸送す

12. 5月初旬 は専ら首里前線に弾薬糧まつ等の輸送一部患者護送に出動す駄馬大隊は新川に位置し自動車で運んだ兵器、弾薬、糧まつ等を更に前線迄に輸送す

13. 5月11日 歩兵部隊損耗甚だしく各中隊より下士官将校1、下士官2、兵10名内外の転属者を出す

14. 5月13日 軍司令官より大東亜戦初のし重隊感状授与さる

15. 5月16日 駄馬大隊は前線の歩兵損耗甚大なるため特編部隊となり弁ヶ嶽に出動戦闘を開始す、大橋少佐指揮す

16. 大橋少佐の20日戦死について26日米屋中隊長戦死し、中隊長佐藤中尉重傷を負い担架にて指揮を執る等大隊幹部佐藤中尉1人を残すのみ

17. 首里の線より後退し更に持久作戦を強化するため軍司令部後退、各部隊も逐次転進を準備自動車大隊は患者後送野砲後送各弾薬、糧まつの後送に任ず

18. 6月1日 以後高良野戦倉庫より専ら国吉、新垣、喜屋武方面に資材後送に任ず、敵艦砲射撃次第に狭少地帯に集中するに至り道路は砲弾のため破壊せられ連日の降雨にて搬送に相当困難を伴い戦死者数も亦逐次増加す

19. 6月11日 八重瀬嶽、富盛地帯より転進を命ぜられ真栄里に後退す

20. 6月13日 し重隊自動車隊最後の輸送を実施す、兵器、糧まつを国吉に運搬す

21. 6月14日 自動車の部品並びに車両を焼却し歩兵部隊として戦闘準備を

なす

22. 6月17日 転進命令下る、第4中隊鈴木中尉は山3478部隊に配属他の4ヶ中隊は師団直轄部隊となり真栄平に転進す

23. 6月18日 大里の陣地に到着戦闘配備完了

24. 6月19日 敵戦車6台攻撃し来る、夜襲撃退せるも戦死者10数名を出す

25. 6月20日 新垣の3476部隊長金山大佐より小(米?)須突破の命を受く

26. 6月21日 第2小隊中隊本部に引き上げ残存者60名内外残すのみ、夜連絡者到着新垣にて金山部隊長戦死の報告あり